

(様式1)

自己評価票

作成日 平成25年5月17日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873600613		
法人名	社会福祉法人 樺山会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム 和みの家	ユニット名	B棟
所在地	〒311 - 1426 茨城県銚田市樺山579-1		
自己評価作成日	平成25年5月17日	評価結果 市町村受理日	平成 年 月 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成 年 月 日	評価確定日	平成 年 月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>診療所・特別養護老人ホームに隣接されており、施設入居者と通所介護利用者との交流の場として、地域の皆様に広く開放させていただいています。</p> <p>年を重ね、日常生活の中に不安な事が増え、孤独を感じる方もおられます。私たちは、皆様が少しでも穏やかに暮らせるよう、また、培って来られた暮らしや習慣、なじみの関係を継続できるよう支援いたします。ユニット間も自由に行き来でき、開放感があり、四季折々の草花や野菜を作り、芝生では、散歩やレクリエーションをしたり、足湯もあり、リラックスさせていただいています。</p> <p>ゆったりとした流れの中、利用者の皆様の「今、この時」を大切に、季節の行事を取り入れながら、寄り添い・喜び・楽しみを共に「笑顔」を絶やささないで過ごしていただける様心がけています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

--

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
I 理念に基づく運営			
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が、理念に記されているように、「憩いの場」となれるよう、管理者と職員でミーティング時に話し合いをし、施設理念を理解し共有することでケアの向上を図っている。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学校の運動会に参加したり、法人の納涼祭にも多数の方が来荘して下さっている。敬老会には保育園児が来られ、合唱をしたり、散歩がてらに立ち寄り、利用者と一緒に遊ぶこともある。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアは積極的に受け入れている。近隣中学校の外国人英語教師の方がボランティアで来て下さり、認知症の支援の仕方を聞いたり、一緒にレクリエーションに参加したりされている。
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況や入居状況等の報告を行い、様々なアイデアや提案をいただき、サービスの向上に向けて職員間で共有を図っている。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居者の認定情報をいただいたり、施設側から様々な相談をしたりしている。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	B棟玄関を出ると道路に面し危険なため、鍵をかけているが、中庭を自由に歩いたり、中廊下を行くとA棟玄関から庭へと出ることが出来る。職員と一緒に散歩に出かけることも多い。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待にとられるような行動や言葉を常に意識しながらケアを実践できるように、事務所内にマニュアルを掲示し注意するようにしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	担当職員が、参加した研修資料を基に、会議資料を作成し、勉強会を開き職員全員が理解するようにしている。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に基づき説明し、質問等をいただき、理解された上で契約している。
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱も用意しているが、面会時にお話しをして、不安や疑問を聞いている。利用者からは、会話の中から聞き取り、出来る限り要望に沿うようにしている。また、それらをスタッフ会議で話し合いケアの向上に努めている。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員アンケートを実施している。スタッフ会議で意見・要望等提案をして、全員で話し合いをしてケアの向上に繋げている。必要時は、個別に話すこともあり、管理者は出来る限り、話しやすい環境を作るようにしている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、勤務表作成においても、職員の希望に沿えるよう話し合いをし、職員がやりがいと責任を持って勤務できるよう心がけている。
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得に関する情報を掲示し、全員に周知している。自分の担当の研修を持ち、資料作成から説明まで携わる事で、理解を深め、人前で緊張せずに話せるようにしている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修に参加し、他事業者と情報交換し、勉強会に取り入れ、話し合いをすることでサービスの向上に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に本人の考え、意向を伺い、説明し、信頼関係を築いている。また、お試し利用するなどしていただき、少しでも不安を取り除いていただける様にしている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設内を観ていただき、不安な事を伺い、当施設でのサービスについて説明し、理解していただいている。また、面会時などに状況説明したり、困っていることや要望など聞くようにしている。時には、電話で話をすることもある。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の生活歴や事前情報を基に、話し合いの中で、本人と家族が施設に対し何を望んでいるのかを伺い、一緒に考えながら、様々なサービスの利用を選択できるように対応している。
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で昔から馴染んで行っている事や得意な事を一緒に行ったり、様々な事を教えていただいたりして、年長者を敬うことを忘れず、お互いに支え合える関係を築ける様にしている。
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、状況報告書を担当職員が記入し、送付している。 面会時に、一緒にお茶を飲んだり、食事介助して頂いたりしている。
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅近所の方が面会に来たり、昔からの友人が来てくださったりしている。 選挙等がある時期には、迎えに来られ、一緒に出掛けたり食事に行ったりされている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方を把握し、席を近くにしている。 また、職員が間に入り、会話やゲームをしたり、本人の今出来る事を見つけ、利用者が協力しながら行えるよう支援している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方も、家族交流会に本人と家族を招待し、一緒に食事やゲームを楽しんでいた。
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中で、入居者に寄り添い、お話しすることで状態の把握に努めている。意思決定の難しい方には、それぞれに合った声掛けや選択肢をあげるなどして把握するようにしている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、本人や家族、ケアマネージャーから話を聞く様にしている。入居後は、面会時に、家族や友人から情報を得ている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌に本人の様子やケア内容等を記入し職員が共有している。
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々に、介護日誌と詳細を記入した支援経過記録があり、それらを基に担当職員が利用者の課題を提案し、スタッフ会議で話し合い、介護計画を作成している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌に記入し、その他詳細は支援経過に記入している。それらを朝夕のミーティング時に情報の共有をしている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族のニーズに出来る限り答えられるように対応している。特に、急な外出や外泊にも柔軟に対応している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の消防団に協力いただき避難訓練を行っている。
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医を確認し、職員は、かかりつけ医とのパイプ役として家族への報告を行っている。
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	急変時は法人の看護師に連絡し対応している。処置がある場合は、出向いて行き処置することもある。その他、利用者の状態を相談したりすることで情報をいただきケアにつなげている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供書を作成し、病院側に提出している。入院中は面会に行き、情報を伺いながら、退院に向けて相談させていただいている。
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	自立が入居の条件になっており、本人や家族にも理解していただき契約している。重度化した場合は、本人・家族・かかりつけ医と相談しながら方針を決定していただいている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故・感染症などに対し、突発的に対応出来るよう勉強会を行い、職員が実践で対応できるよう取り組んでいる。
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署・消防団の方の協力をいただき「日中・夜間」想定で避難訓練を実施している。法人として飲料水・食糧・排泄用品他災害時必要なものを備蓄している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し声掛けするよう心がけている。排泄時や衣類交換時も、本人の自尊心を傷つけない様配慮しながら、時には耳元で話をするようにしてプライバシーを守っている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物・出前・外食など本人の希望で行い、訴えの出来ない利用者にはいくつかの選択肢をあげ決めていただいている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースに合わせ、生活していただいている。職員は、声掛けの仕方、声の大きさやしぐさに至るまで、利用者に合わせ、出来るだけ寄り添い、利用者の声を聴くよう心がけている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類を一緒に選んでいる。利用者によっては、自分の好みで、毎日スカーフを変えるなどしておしゃれしている。散髪については、職員が利用者に声掛け、ヘアカットの時期を相談している。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備・配膳・片づけ等自分に出来る事を利用者と話し合い当番制で行っている。生活改善委員会で食事に関して話し合い、栄養士の方にも参加していただき、希望のメニュー等も取り入れていただくこともある。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事はすぐに確認できるよう記録しており、少ない場合は、代替りの食材や乳製品で対応することがある。また、面会時に家族の方にお願ひし、お持ちいただくこともある。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを促している。利用者によって一部介助しながら清潔を保っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄は、自立の方も多く、各自居室内にトイレが設置されている為居室で済ませるが、職員は排泄パターンを確認するため記録している。利用者によっては、失禁時の交換など、自尊心を傷つけない様声掛けし介助している。訴えの出来ない入居者は、記録を確認し、トイレ介助している。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況・水分量をチェックし乳製品や食物繊維を取っていただくよう声掛けしている。運動や腹部マッサージをしながら様子観察しているが、便秘気味の方は、医師と相談し薬を処方していただいている。
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	各ユニットで浴室が違うため交互に浴室を使い気分転換をしていただける様支援している。利用者によって、午前の希望もあり、その都度対応している。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、体調を看ながら体を動かしていただき、不穏な時は、寄り添い、話をしたり、ホットミルクを用意するなどして対応している。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者ごとに薬の説明書をファイルしており、変更時は連絡帳に記入し、ミーティングで報告し情報の共有をしている。服薬については、手渡しし、必ず飲んだことを確認している。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の趣味など生活歴を活かし、日常を楽しんでいただいている。家族にお願いして、好きな食べ物を持ってきていただいたり、買い物時に購入したりしている。また、中庭の芝生を歩いたり、日光浴したりと気分転換を図っていただいている。
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と外食や買い物に出かけたり、ご家族と一緒に墓参りや買い物に出かけたりしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	貴重品は事務所預かりとなっているため、買い物時に、職員の見守りで本人に支払いをしていただいている。
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	淋しくなり顔が見たくなると「電話してほしい」と話されるため、事前に家族の方をお願いし、電話する時間帯を伺って話をしていただいている。特に遠方の家族の方には、電話をしていただき話をしていただいている。
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	ユニット間を自由に行き来できる廊下には、行事写真や季節感が味わえるよう飾り付けしている。寒い時期は足湯があり利用していただいている。庭には、季節の花や草木があり、散歩できる。
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	和室やソファがあり自由にくつろいでいただいている。中庭の芝生の脇にテーブルと椅子を設置し、日光浴したり談話をしたりと自由に利用されている。
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	入居前に利用されていたなじみの物や写真を飾ったり、ご主人と息子様のお位牌を置き、花を飾って供養されている方もおられ、自分なりの居室作りをされている。
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	トイレ・廊下・浴室等共有スペースに手すりを設置し、玄関の段差をなくしている。利用者に合わせ、ベットの位置を変えるなどして、少しでもリスク回避できるように工夫している。

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない